

アピール

難病を知っていますか？

病名もつかず診断もできず、そして治療法もない病気の患者たちがいます。

生涯、医療を受け続けなければならない長期慢性疾患の人たちがいます。

小児の医療費助成を受けて闘病生活を続け、祝うべき 20 歳の誕生日を迎えたその日から、医療費負担に苦しむ若者たちがいます。

一方では、専門医療が受けられないどころか普通の医療さえ受けられない地域もあるのです。世界レベルだという日本の高度な医療が受けられない、薬が手に入らない、医療費や薬代が払えない、そして治療をあきらめなければならない患者たちがいます。家族の介護や経済的な負担は大きく、患者には生きにくいことも少なくありません。仕事に就きたくても患者を雇用する企業はまだまだ少数です。今の医療制度では必要なリハビリも続けることができません。

難病や長期慢性の病気は特別な人がかかるわけではありません。決して特殊な病気でもありません。私たちの病気の患者総数は全人口の 3%から 5%とも言われています。国民の誰がかかっても不思議ではありません。多くの場合、いつ誰がどこで発病するかも分からないのです。あなたの家族が、そして隣人が、患者となるかもしれません。

私たちは同じ国に住む国民の一人として、すべてにおいて平等であり、すべての国民とともに生き、住み、学びそして働きたいと願っています。どこに住んでいても、より良い医療を平等に受ける権利があると信じます。

お金のあふないや住んでいる地域、年齢で受けることの出来る医療に不平等があってはならないと思います。

私たちが今日、全国各地から集まったのは、すべての国民が平等に生きることが出来る社会が、私たちも生きて行ける社会だと信じるからです。難病の患者も、一生涯医療と向き合わなければならない人も、体や心に様々な障害や困難を持っている人も、生まれたばかりの子どもも、高齢の人も、人間としての誇りと尊厳を持って生きていくことの出来る社会を目指したいからです。

私たちは、様々な違いや困難を乗り越えて、手をつなぎ、私たちの住んでいる社会に向かって「誰もが暮らしやすい社会の実現」を働きかけ続けることを確認します。多くの患者・家族のために、力の限り希望の光を灯し続けます。

2010年11月28日

第1回難病・慢性疾患全国フォーラム 参加者一同